

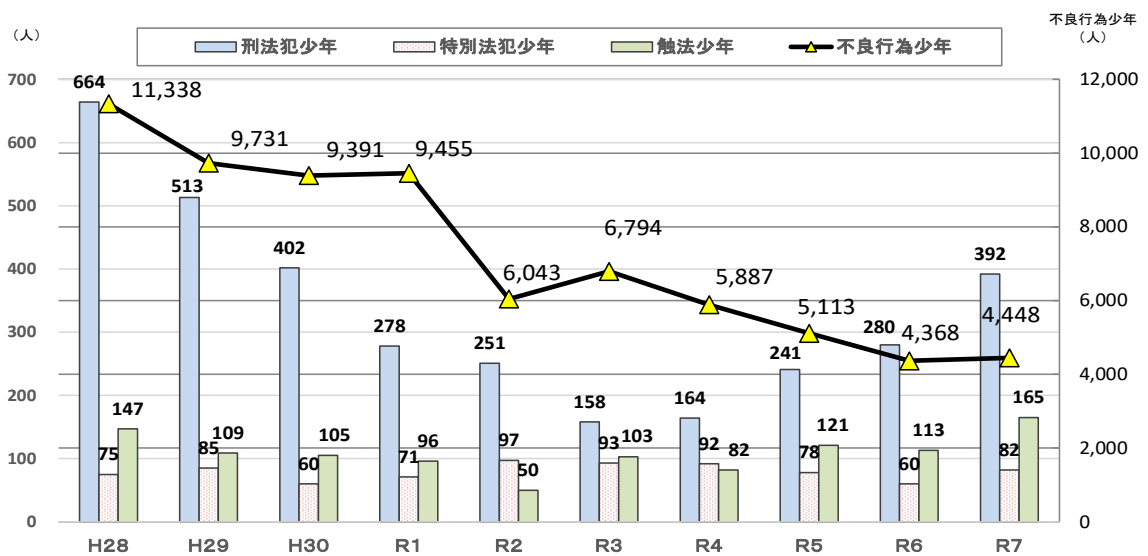
少年非行の概況 (令和7年中)



茨城県警察本部
人身安全少年課

1 少年非行の概況

(1) 少年非行の情勢

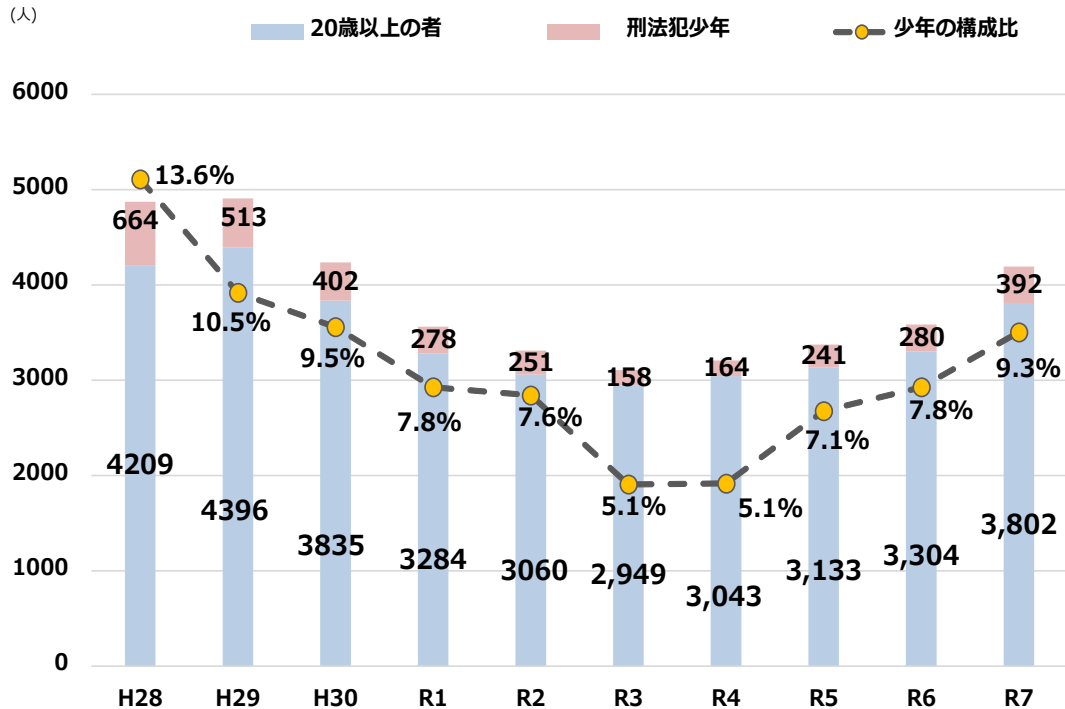


- ・刑法犯少年…犯罪行為をした14歳以上20歳未満の者のうち、刑法犯で検挙された少年
- ・特別法犯少年…犯罪行為をした14歳以上20歳未満の者のうち、特別法犯で検挙された少年
- ・触法少年…刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の少年
- ・不良行為少年…深夜はいかい、喫煙、飲酒、粗暴行為等で補導された少年

- 刑法犯少年は令和4年以降増加に転じました。令和7年中は392人で、前年と比べて112人(+40.0%)増加しました。
- 特別法犯少年は82人で前年と比べて22人(+36.7%)増加し、触法少年は165人で前年と比べて52人(+46.0%)増加しました。
- 不良行為少年は長期的には減少傾向にありますが、令和7年中は4,448人で前年と比べて80人(+1.8%)増加しました。

(2) 刑法犯少年

ア 刑法犯総検挙人員に占める刑法犯少年の割合（構成比）



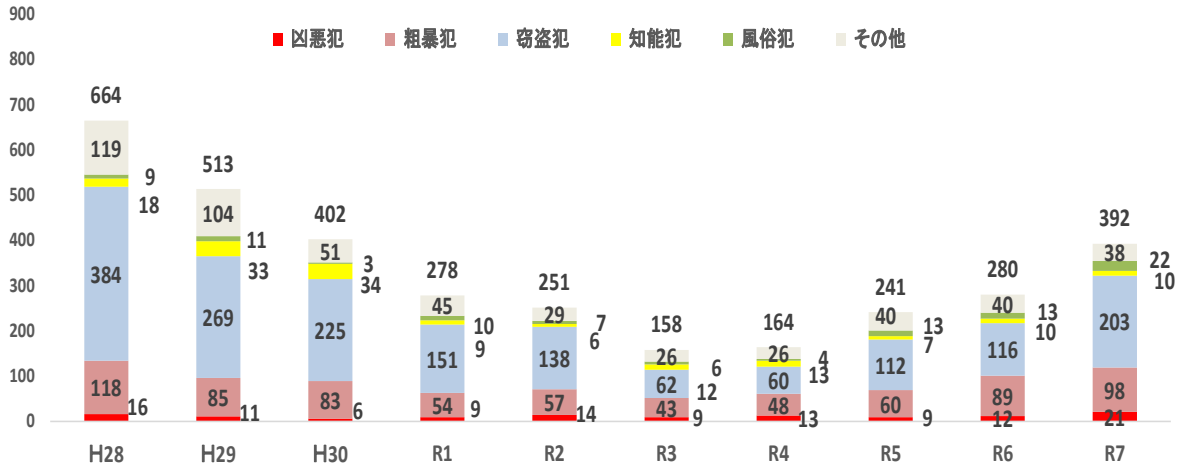
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	増減数	増減率
	総検挙人員	4,873	4,909	4,237	3,562	3,311	3,107	3,207	3,374	3,584	4,194	610
20歳以上の者	4,209	4,396	3,835	3,284	3,060	2,949	3,043	3,133	3,304	3,802	498	15.1%
刑法犯少年	664	513	402	278	251	158	164	241	280	392	112	40.0%
構成比	13.6%	10.5%	9.5%	7.8%	7.6%	5.1%	5.1%	7.1%	7.8%	9.3%	1.5P	
20歳以上の者の人口	2,406,074	2,401,376	2,396,035	2,395,747	2,390,775	2,386,731	2,393,183	2,390,799	2,385,983	2,379,614	-6,369	-0.3%
人口比	1.7	1.8	1.6	1.4	1.3	1.2	1.3	1.3	1.4	1.6	0.2	
少年人口	169,764	168,631	165,797	165,431	161,005	157,520	154,960	153,658	152,137	149,842	-2,295	-1.5%
人口比	3.9	3.0	2.4	1.7	1.6	1.0	1.1	1.6	1.8	2.6	0.8	

注1：表中の少年人口は、茨城県政策企画部統計課の推計人口（14～19歳）（各年1月1日時点の人口を使用）

注2：人口比は、同年齢層人口1,000人当たりにおける検挙人員の割合。

令和7年中、刑法犯総検挙人員4,194人に占める刑法犯少年392人の割合（構成比）は9.3%で、前年と比べて1.5ポイント増加しました。

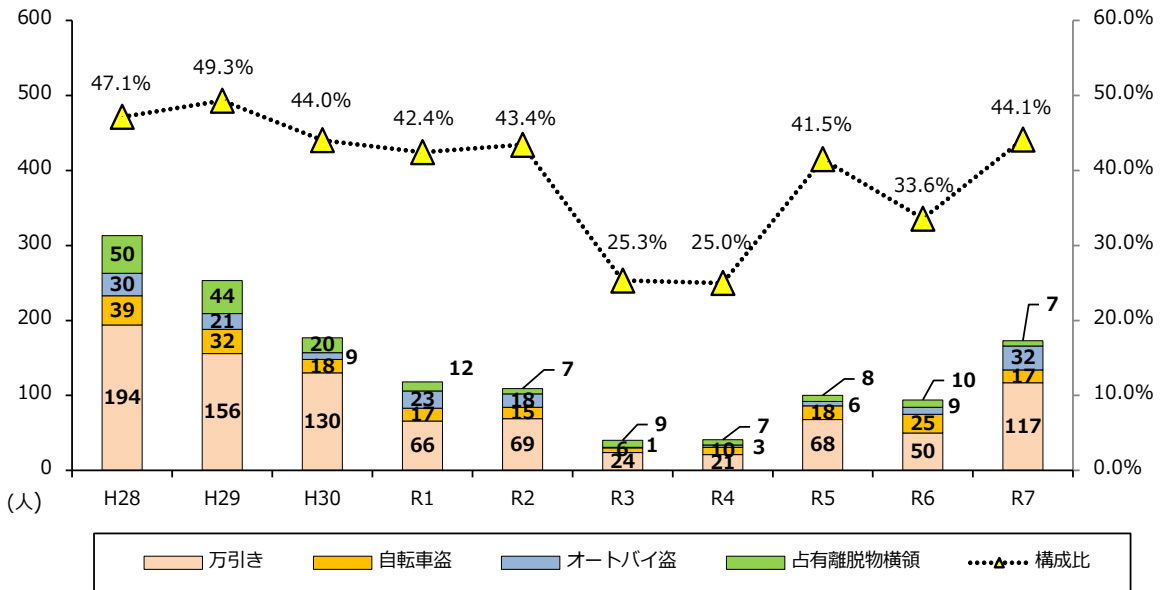
イ 罪種別検挙状況



- ・凶悪犯…殺人、強盗、不同意性交等、放火等
- ・粗暴犯…傷害、暴行、恐喝、脅迫等
- ・窃盗犯…万引き、自転車盗、侵入窃盗等
- ・知能犯…ニセ電話詐欺、横領等
- ・風俗犯…公然わいせつ、賭博等
- ・その他…占有離脱物横領、公務執行妨害等

令和7年中、窃盗犯の検挙人員が203人で、前年と比べて87人（+75.0%）と最も増加しました。

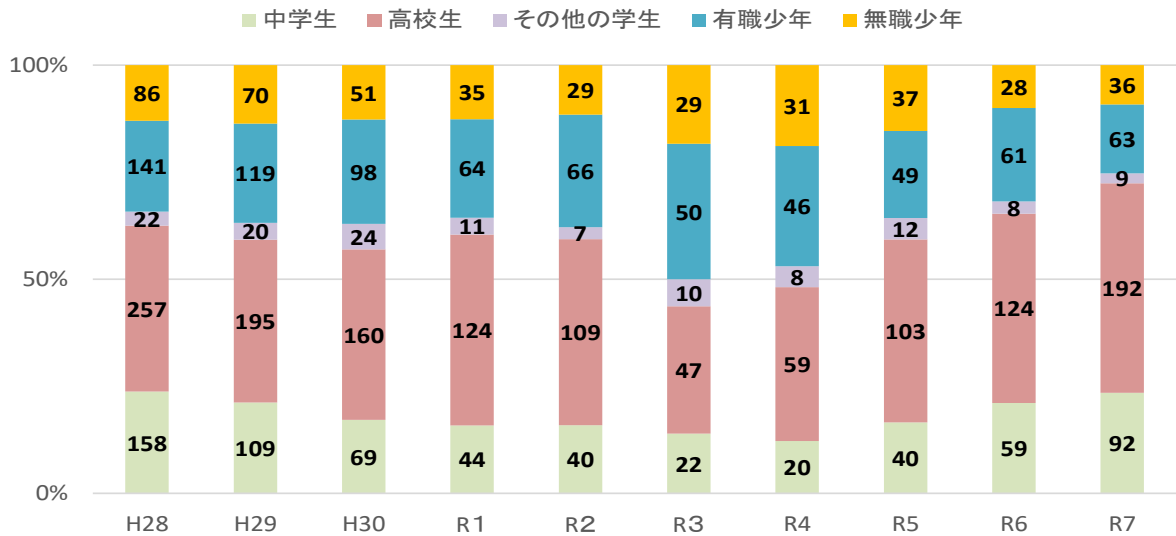
ウ 初発型非行検挙状況



	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	前年比	増減率
	刑法犯少年	664	513	402	278	251	158	164	241	280	392	112
初発型非行	313	253	177	118	109	40	41	100	94	173	79	84.0%
万引き	194	156	130	66	69	24	21	68	50	117	67	134.0%
自転車盗	39	32	18	17	15	6	10	18	25	17	-8	-32.0%
オートバイ盗	30	21	9	23	18	1	3	6	9	32	23	255.6%
占有離脱物横領	50	44	20	12	7	9	7	8	10	7	-3	-30.0%
刑法犯少年全体に占める初発型非行の割合(構成比)	47.1%	49.3%	44.0%	42.4%	43.4%	25.3%	25.0%	41.5%	33.6%	44.1%	10.5P	-

令和7年中、初発型非行の検挙人員のうち、万引きが117人（前年比+67人、+134.0%）と最も多く、次いでオートバイ盗が32人（前年同期比+23人、+255.6%）でした。

エ 学職別検挙状況（学職別の構成比）

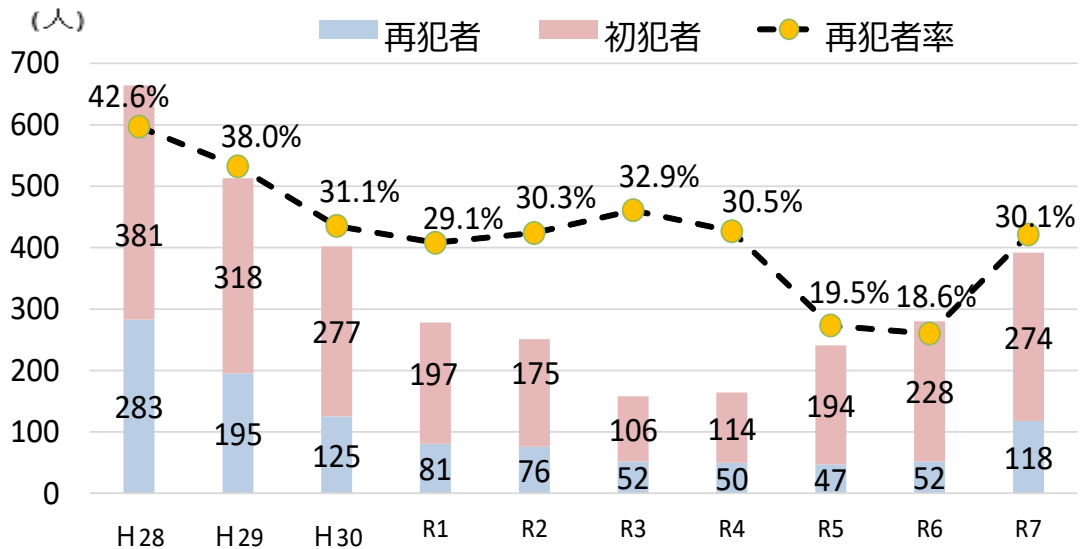


注1：「その他の学生」とは、大学生及び専修学校生等

注2：グラフラベルは検挙人数を表示

令和7年中、刑法犯少年の検挙人員392人のうち、高校生が192人（49.0%）と最も多く、次いで中学生が92人（23.5%）でした。前年と比べて、高校生の割合が68人（+54.8%）と最も増加しました。

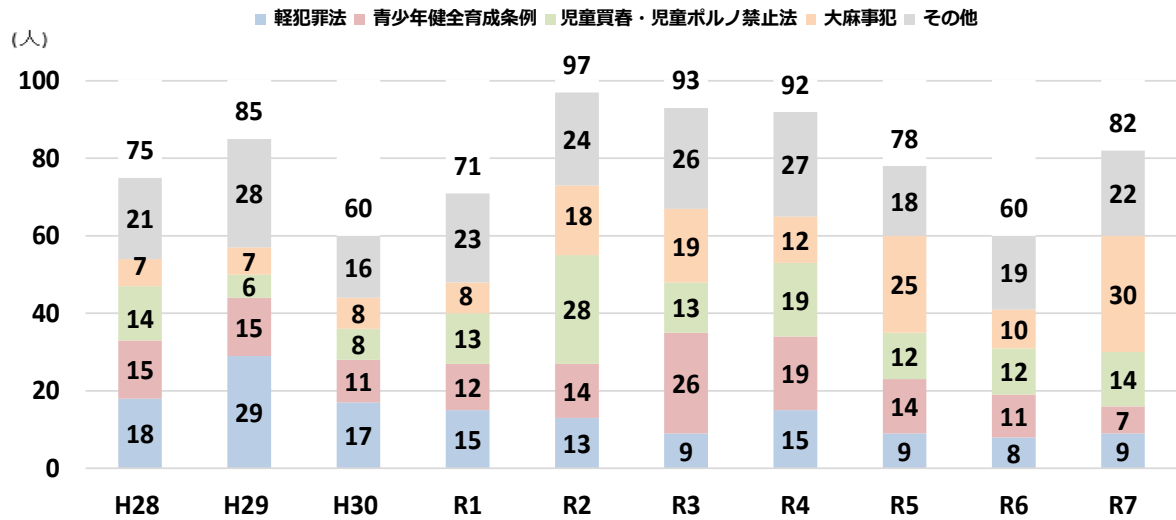
オ 再犯者率



令和7年中、刑法犯少年392人のうち再犯者数は118人、再犯者の割合（再犯者率）は30.1%で、前年と比べて11.5ポイント増加しました。

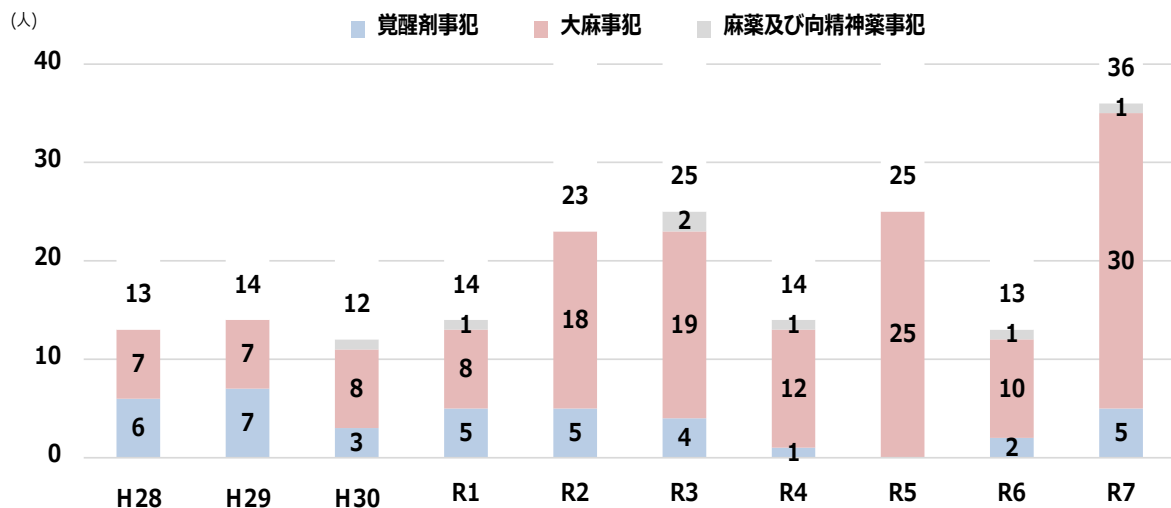
(3) 特別法犯少年

ア 法令別検挙状況



令和7年中、特別法犯少年の検挙人員は82人であり、前年と比べて22人（+36.7%）増加しました。
法令別では、大麻事犯での検挙が30人で、前年よりも20人（+200.0%）と最も増加しています。

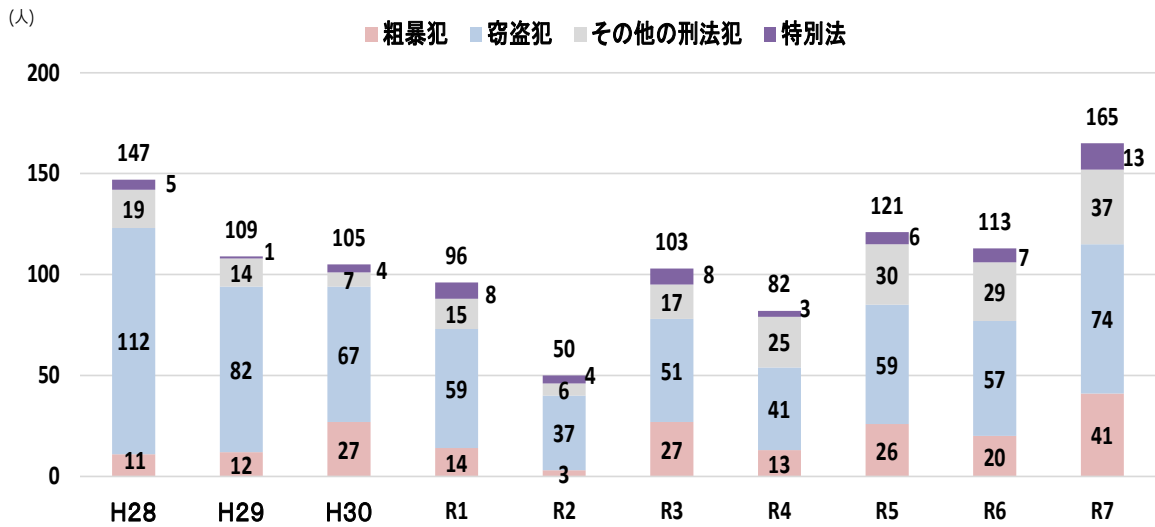
イ 薬物事犯



※注…麻薬及び向精神薬事犯の検挙は、麻薬及び向精神薬取締法において麻薬とされる「大麻・THC」に関する検挙を含まない

令和7年中、薬物事犯の検挙人員は36人（前年比+23人、+176.9%）でした。
そのうち大麻事犯は30人（前年比+20人、+200.0%）、覚醒剤事犯は5人（前年比+3人、+150.0%）でした。

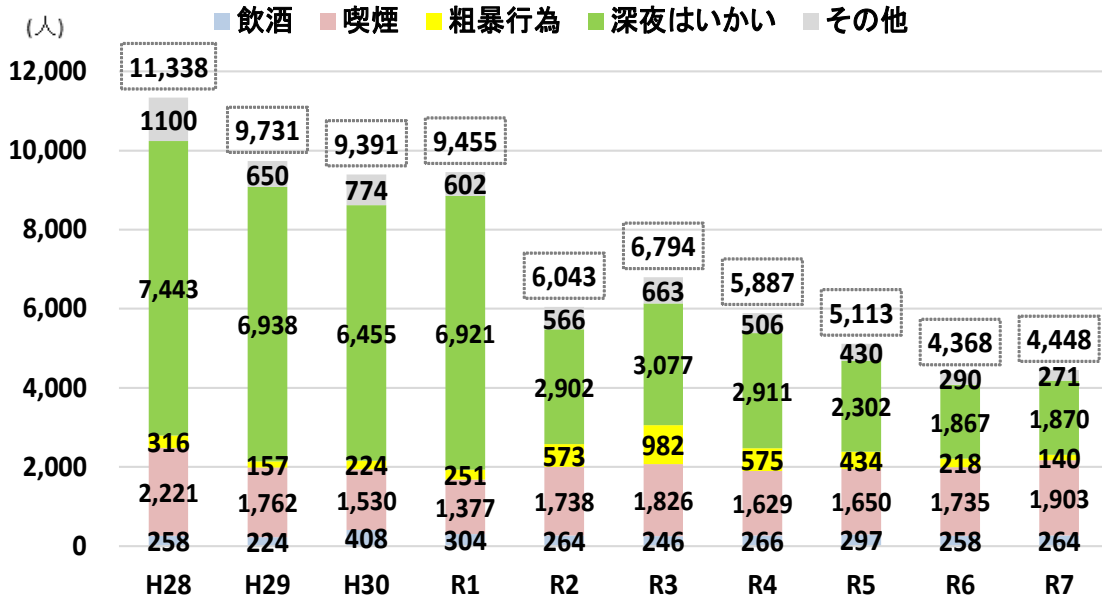
(4) 触法少年



※その他の刑法犯…凶悪犯、知能犯、風俗犯、刑法犯少年その他(器物損壊等)

令和7年中、触法少年の補導人員は165人で、前年と比べて52人(+46.0%)増加しました。
補導人数のうち、窃盗犯が74人で全体の4割以上を占めました。

(5) 不良行為少年

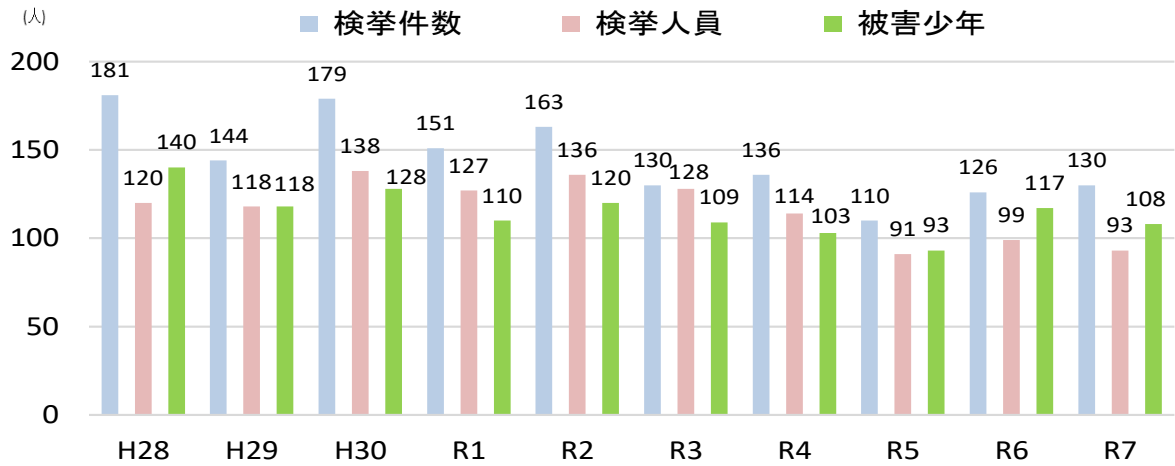


※ その他…家出、怠学等の不良行為

令和7年中、不良行為で補導された少年の総数は4,448人で、前年と比べて80人(+1.8%)増加しました。
行為種別では、喫煙が1,903人と最も多く、次いで深夜はいかいが1,870人で、この2行為が全体の約8割を占めました。

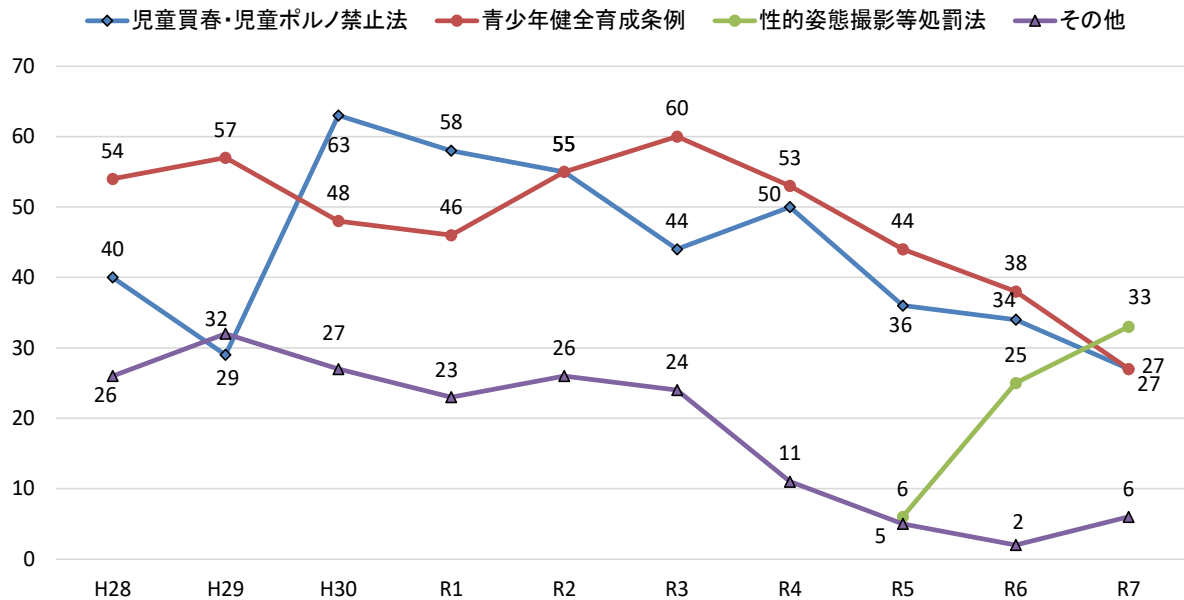
2 福祉犯（少年の福祉を害する犯罪）

(1) 検挙件数・検挙人員・被害少年



令和7年中、福祉犯の検挙件数は130件で、前年と比べて4件（+3.2%）増加しました。検挙人員は93人で、前年と比べて6人（-9.1%）減少しました。被害少年は108人で、前年と比べて9人（-7.7%）減少しました。

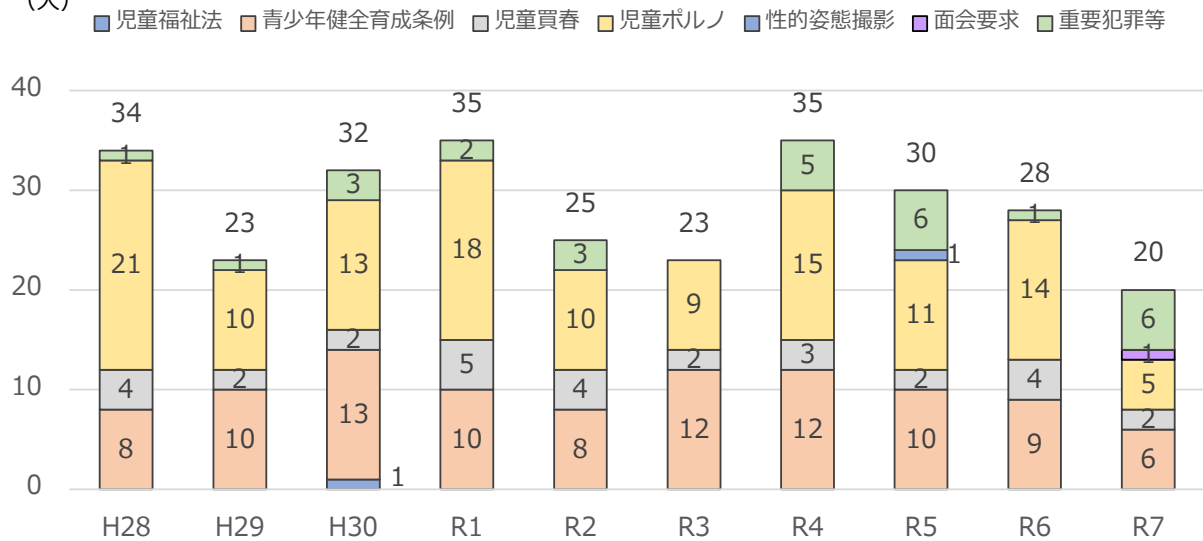
(2) 法令別福祉犯検挙人員推移



令和7年中、法令別の福祉犯検挙人員は、性的姿態撮影等処罰法が33人と最も多く、前年と比べて8人（+32.0%）増加しました。次いで児童買春・児童ポルノ禁止法が27人（-7人、-20.6%）、青少年健全育成条例が27人（-11人、-28.9%）でした。

(3) SNSに起因する事犯の被害状況

(人)



- ・ SNSとは、本統計では、通信ゲームを含み、届出のある出会い系サイトを除いたものをいう。
- ・ SNSに起因する事犯とは、SNSを通じて面識のない被疑者と被害児童が知り合い、交際や知人関係等に発展する前に被害にあった事犯をいう。
- ・ 重要犯罪等とは、殺人、強盗、放火、不同意性交等、略取誘拐、人身売買、不同意わいせつ(旧強制わいせつ)、逮捕監禁をいう。

令和7年中、SNSに起因する事犯の被害児童は合計20人（青少年健全育成条例6人、児童買春2人、児童ポルノ5人、面会要求1人、重要犯罪等6人）で、前年と比べて8人（-28.6%）減少しました。
重要犯罪等については、不同意わいせつが3人、不同意性交等が2人、略取誘拐が1人でした。